當流鷹書

登錄第2988號
第 VIII 門
第 3 部
記號 D.
函架
平野圖書箋

UNIVERSITY OF KANSAS LIBRARIES
MS
C178
RARE BOOKS

當流齋寫書

五紙敕二十六段

抑吾朝鷹之始者仁徳帝四十三年正月
甲子依納屯倉阿弭古異鳥ヲ奉乃百濟
王子酒君初テ彼鳥ヲ和泉國百舌鳥野
御狩ニ擎出テ多クノ雉子ヲ執タリ是日
域鷹狩ノ始トセリ爾シヨリ往々鷹鷂ノ事
盛也其後和帝御宇貞觀年中ニ豊後
國ヨリ米光田光トテ鷹大ノ長人来テ異域
風ヲ傳フ又曰一條院御時孔真朱光ト云者

越前國敦賀ニ來テ倶知祖ト云鷹ヲ携タリ
又曾天摩ト云者駿犬ヲ牽ケリ一條帝此
事ヲ聞召テ唐崎大納言政頼ヲ遣賜鷹
經ノ疑惑ノ事共ヲ正シメ給彼等其書共ヲ見
テ抃然トシテ謂テ云是百濟國ノ秘記也書
題ヲ聞テ見事始也其口授我如ノ解ヘキナラ
スト辞シテ傳ス異朝人其愛ニ耽リ遂ニ鷹
書ノ要決十八箇ノ秘法卅六ノ口義及鷹

飼ノ裝束且鈴餌具狩杖其外表ノ器品不
殁傳授ニテケリ自是鷹狩日々盛ニメ於
今傳法用禮式

有司奏来之事

帝の帽子脩衣にして又革帯垂紳のみにして投壺をなすや否やを奏するなり

と云 別注ハ本ノ注ノ上ニアリ

大納言奏之事

天皇投壺の餘興に和琴の弾奏を命ずるなり

古来ヨリ公式ノ投壺タリ今其ノ式ヲ考フルニ将校ト云ハ侍臣ノ謂ニシテ大納言ハ侍臣ノ中ノ将校ノ上ニアリ

大納言取矢筈之事

大納言ハ矢筈ヲ取ルナリ

大納言ハ矢筈ヲ取ルナリ

大納言ハ矢筈ヲ取ルナリ

之傳云

鷹のりは三國ニ云事

摩訶陀國ニ云ハ　まくまふト云　隼鳥

契丹國　ニ云ハ　まん鷹　ト云　摩鷄

百濟國　ニ云ハ　くちん　ト云　壧雄

大唐　ニ云ハ　忽ふ　ト云　胡鳥

或ハ百濟國志や山の猿ニ云ハかふちんと云契丹國ニ云ハ山の猿ニ云

西ハせもと云宸且國中ニ云ハ鷹部と云日下ニ云ハたかといふ

又山溪考に大唐の胡鷹三韓の鷹又云ニ蕪の鷹形狀の鷲百濟の鷹雄

皆鷙の称号ニ如此の故実鞍猶斗於口傳有

鷹文字乃事

日本記紫鷹と云て三ホト鏡紅葉鷹と云て赤鷹と云ハ鏡ハ此鷹

多鷲鷹神鳩蒼鷹精去大鷹鷹ノ後大タカト云黄鷹鷲鷹ノ若鷹ヲ云是何鷹

口傳兄鷹（セウ）是未字ニ不知口傳有兄鷹ハ雄ヲ大鷹ト云角鷹鷲　鷲　隼　鷲　鷲

鷲隼　是何鷹隼ノ字也　鷄　兄鷄　兄鷄　小男鷹　雀鷄　雀鷄　雀鷄

鵞（ガイ） 悦（ロ）哉 省鵠 省鵠 足皆悦哉ナリ 鵜（サヒ）鵜 小省 鴨鵜 鵜 赤鷺（サヒ）青

鷺 底鷺 下鷺 鷺（スウユウ）浩 鷺（サヒ）鷺 或ハ彰鷺を誤差鷺と訓也 合虎（カツユ）

鷺 再底鷺 ナ日先身骨ニ名小名ニツ丸を云ヘ 鷺秘傳云云 神草

神草の大鷺なるゝ也ゆゑ鷺を細ゆゑハ云ヘ丸をいふなり 茨鷺 一束を云 梅鷺 二束を云 青

鷺 三束を云 斤鵜（ニハリ）云 二束 毒（ニ）鵜云三束 再斤鵜四束 再鵜四束

以後を云

一 架（ホコ）の高サ三尺五寸或ハ四尺三寸架の長六尺二寸或ハ三寸架の大サ寸ゆゑ小口を

丸色くなり 委鳥ニ云

一 大鷺を六束本ニつなさ見鷺をハ束本ニ輕鷺ニ口傳ニ鷺と鷺の高ハ五寸ニ

一ツ鷺也

一 各人ニ人の方ニ数字鷺鷺ゆゑ鷺ハ黄鷺の鷺を各人の方にて鷺也

生鷺有ハ勿論各人の方に鷺ゆゑなり

一 大鷺鷺ゆゑ七ツ志めて二ツ鵜ゝゝくまり下を三ツ者に結ひし

一 同ハ鷺ハ三ツ志めて二ツ鵜ゝゝ鵜（シメ）て二ツ束を一結也

一 鵜ハ三ツ志めて下を鵜て結ひし

一 御高祖頭巾 俗名をいもむし

一 神前幕 一張 但新仕調

一 小高座 一張 但二畳敷

一 釜通の高座 一張 但二畳敷

一 傾城の高座 一張 但二畳敷

一 幕にお染久松白糸看板

一 五枚続の内 本の末の巻

一 五枚続の内 本の中の巻

一 高の生 一代を用て作る

一 大白 弓矢 小白 弓矢

一 高白 眉毛 一 高白 眉毛

一 尾白 狐白 一 尾白 狐白

一 赤白 猫面白 一 赤白 猫面白

一 高一張 書文字の中

一 高一張 書文字の中

一 幕 三張 内二張 一張 用

一 幕 三張 内二張 一張 用

一 幕 三張 内二張 一張 用

一　針鉗ノ寸法ハ第一圖ノ如ク線ノ太サ二分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第二圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第三圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第四圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第五圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第六圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第七圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第八圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第九圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第十圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第十一圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第十二圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第十三圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第十四圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第十五圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第十六圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第十七圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第十八圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第十九圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第二十圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第二十一圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第二十二圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第二十三圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第二十四圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第二十五圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第二十六圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第二十七圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第二十八圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第二十九圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第三十圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第三十一圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第三十二圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第三十三圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第三十四圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第三十五圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第三十六圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第三十七圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第三十八圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第三十九圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第四十圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第四十一圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第四十二圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第四十三圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第四十四圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第四十五圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第四十六圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第四十七圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第四十八圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第四十九圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第五十圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第五十一圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第五十二圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第五十三圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第五十四圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第五十五圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第五十六圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第五十七圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第五十八圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第五十九圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一　鍼ノ寸法ハ第六十圖ノ如ク長サ二寸五分ニシテ其ノ先ヲ尖ラシメ其ノ頭ハ圓形ニシテ徑一寸ニ作リ其ノ中央ニ孔ヲ穿チ之ニ絲ヲ通ス

一 一 一 一 一

云り（ニヨリ）村（ムラ）の鎮（シヅメ）と云ふ事を年（トシ）中（ジウ）祈（イノ）る事（コト）也（ナリ）

木（キ）の僵（タヲレ）たるを祭（マツ）る事（コト）也（ナリ）

僵（タヲレ）たるまゝにて（ソノマヽ）置（オク）事（コト）也（ナリ）

（但（タヾ）し）

（此（コノ）外（ホカ）に）

（猶（ナホ））

（猶（ナホ））

（猶（ナホ）

一 昔庚の王麻将志のふ時麻塩の中に入しに其塩を園て麻をせ
らんとする所の中に白髪の翁ありて塩を情えて御門と読をまゐる
野守の読と云ひ読とハ翁の人の思ふ事皆うりて入る法有是前
奈皇恐繋の読のゆゑ二ニハ此読逆報のんのものハ二者ひ読と
思ふ時ハ其ゆゑ有に入ゆゑ三ニハ人皇廿二代雄略天王御
庚将有し時矢云しゆゑ庚を野守の翁ゆゑ其野守の
読ハ水と木に長る庚ゆゑ下の水に雑うりこうしと入て庚を長
上うり是を野守の読といふ也

一 陶の所うり所とり落る庚なれは野守の読ゆゑに是
大の縄ハ七ゆゑ一ゆゑとてのゝ縄し当りそハ本ゆゑに其一大絹ハ
枝を持て大をまゐれ其笠をそこに遊て将枝をもの之に曾也
大庚に所をまして後笠をまゐよ

一 犬治寅ゆゑ雅九月九日より遊ゆ神平印分と寅ゆ也
犬絹ハ玉女の方向て為忌笠をぬさ金の羽を三枝を金也是ハ金の
俗之秋ハ白色の羽之是めんなし

一

再詣
大神宮
祢宜
山口
祝
神主
法
師
社家
神官
遠
近
所
詣
人
多
神
前
神
酒
神
供
神
鏡
神
楽
神
子
神
馬
神
領
神
田
神
木
神
垣
神
苑
神
職
神
事
神
主
神
官
神
社
神
殿
神
体
神
宝
神
符
神
札
神
輿
神
幸
神
輿
神
幸
神
輿
神
幸

一 [illegible]

一 [illegible]

一 雪庭の松と云ふ事 以上

雪庭 [illegible]

餅雪を松の名沢松

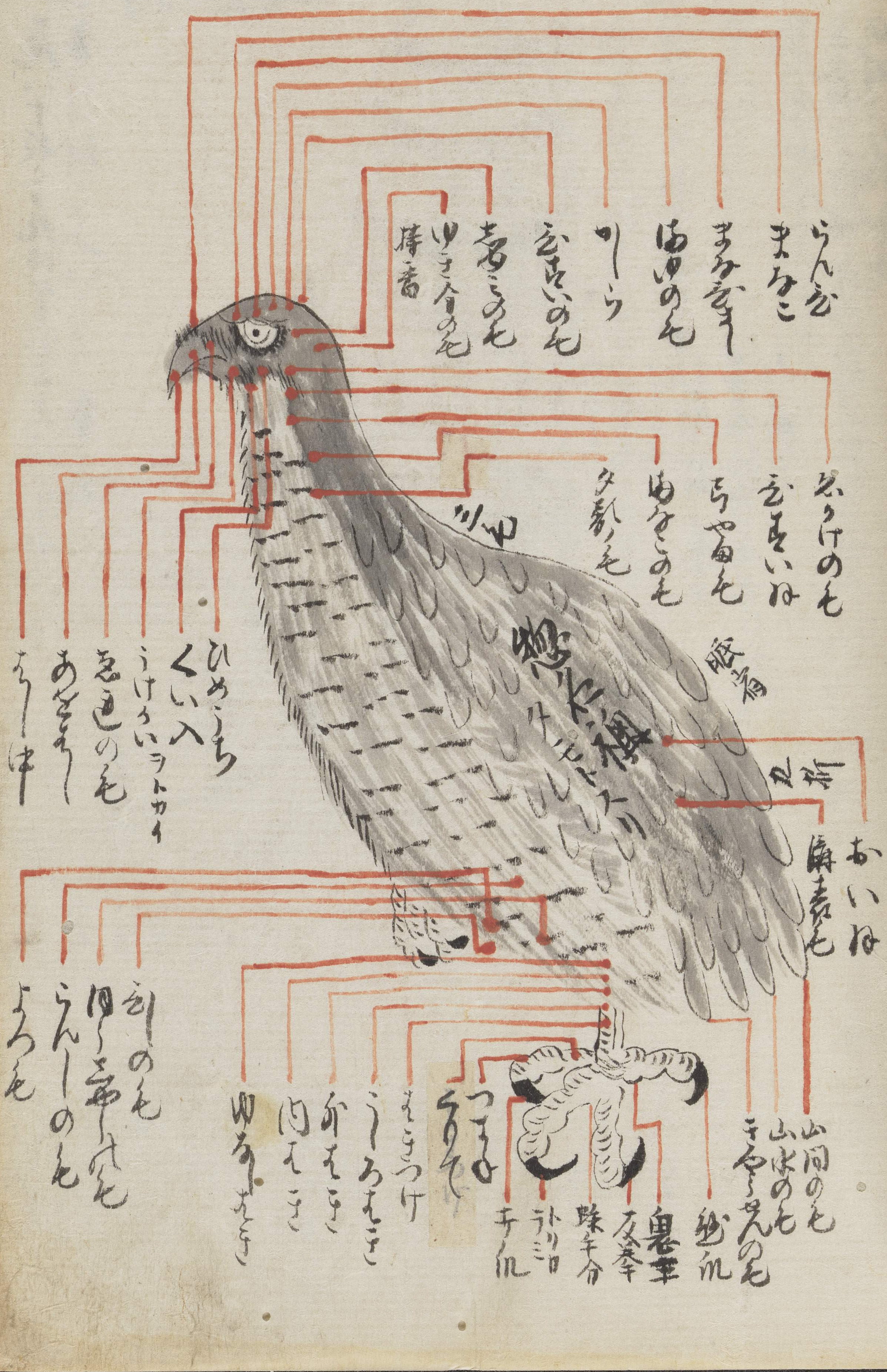
夏朝の [illegible]

亀氏 [illegible]

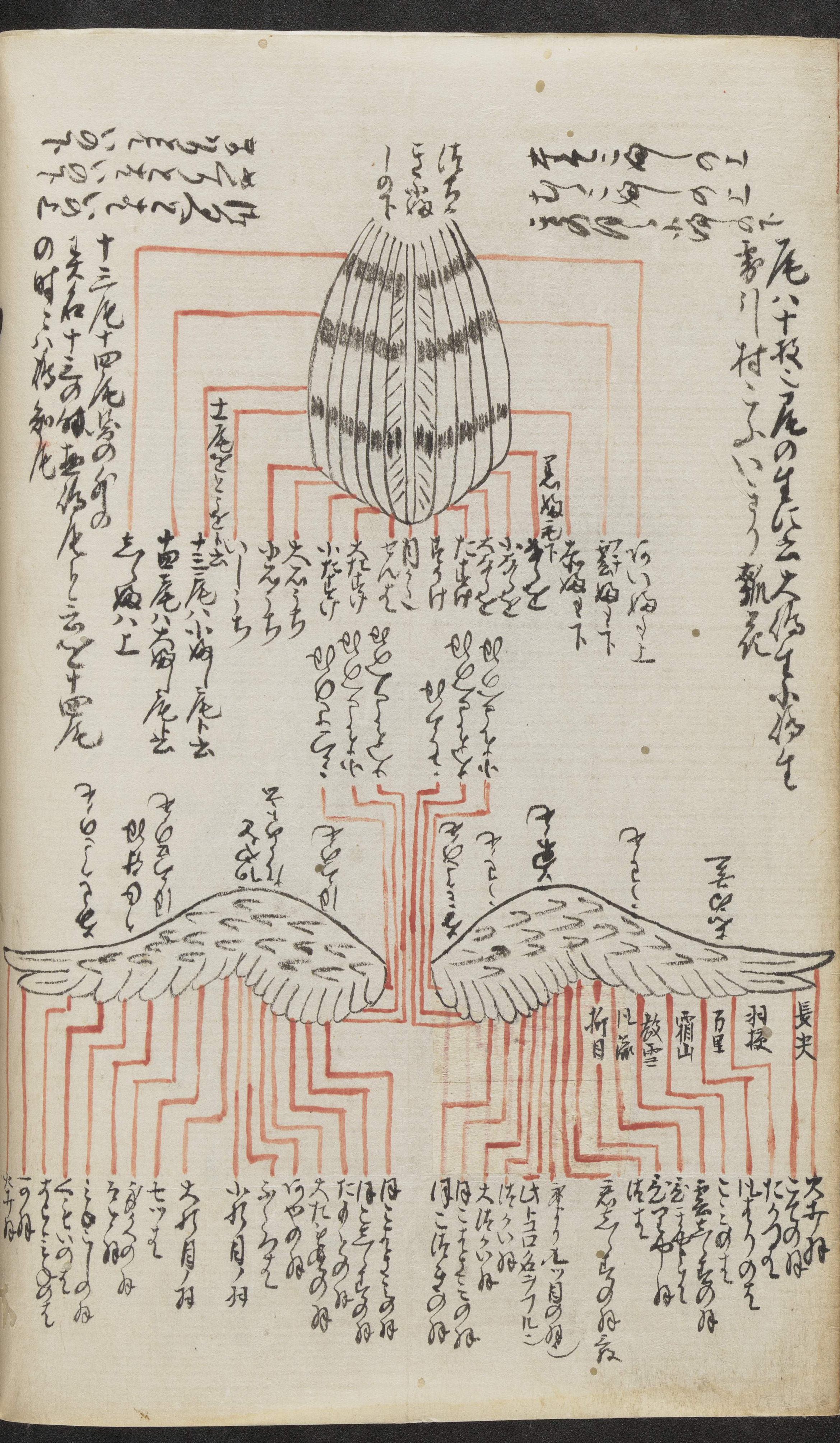
餅供 [illegible]

秋月に尾花の波のかけ鶴袖吹かへれ海のこゝろ也
併仕候にかきたるまゝ御ゆるし候はゞ御さしてまゝ寄を寄せて拝見
一 かゝ雪とハ甲州鷹のゆゑ或ハ葉鷹を伴隊鷹なりし呼し
勢ゆへて小田のほうそのうゝ川ハ鷹とゝ鳥をやまもしん
かりてし鷹とりかゝしてやまし（ゆゑ）天の川をに月うかこゝぬる
鳥なりて鷹のこゝをかゝる鶴の毛とるこゝのすゝ此鳥をあふ
一 尖山ゆゑ
足羽の山足絵をまれ猿なれや笠をいまゝる絵なるしん
一 罠縄の鶴
いつくにかゝをおき縄のよるへなりしてハかゝる山かけの尾
一 詮ゝ鶴
まゝ此地もつかひてしてまゝ鷹の於納まる夏まゝ此ゆ
一 鷹のゆゑしる時羽ハ東を鳥々ハ西を鳥或留に
なし鷹にかれけるゝとしたれにハ笑ふ鳥ゝおし（こゝ）
一 鳳輦の尾の程をぬきけしまゝ鳥ハ延喜帝より為姫鷹鉢に

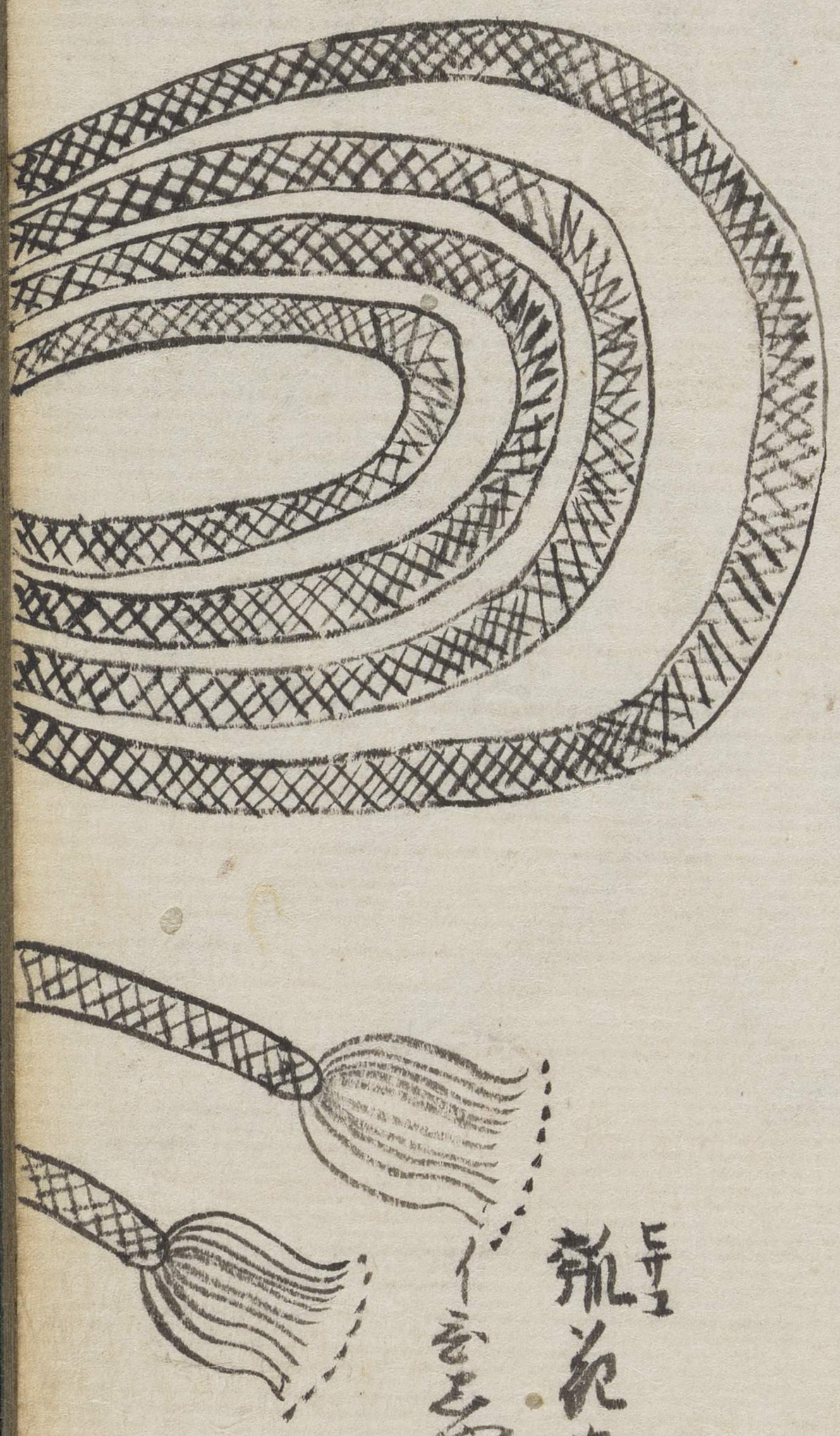
のきねぶ川と云事有実也
雲よりもなりおろして也鳥鳥の事也
鳥ゝさゝの角の程にかかりて也御輿の前にあるのまゝん
此事長和年中の比或鳥羽と云事也此御法有と秘事也
鳥の雌雄をみん時へきす右より左を掩ふ也以雄とあるとあり
右を掩ふ雌也
石ハ鳥を右へ出ハ南用左に振中ハ或ハ南にあることすと
鳥鳥の身分徒えかゝるし左へ出ハ右へ出
非ノ鳥を出願鳥又ハ御贄鳥と云事也
もし鳥の目をにさゝる狩様の長さ也人の寸けにあるも
こゝ生鳴生と云ハ小鳥に有
光孝天皇に仁明第三の御子小松の御門と申也此王子山城国
斤河の雲の羽の出鳥狩に
翁まひ人なとかめてかりたるかふまりたるかつ鳴なり
米山のこねと鳴鳥の雨ゆらねは交きの狩の名まへなり



らんぞ
まなこ
まなぞす
ゆゆのも
りしら
ぞさいのも
ぞこのも
ゆさ今のも
持香
ぶかけのも
ぞさいね
ちやあも
ゆなこのも
夕影も
ひめうち
くい入
うけかいヲトカイ
ぞ通のも
あをすし
ちし中
おいね
海表も
山間のも
山水のも
そやらせんのも
紙机
裏平
反拳
蛛手分
トリ口
手机
つまる
ちりそ
まきつけ
うしろまき
かまき
内まき
ゆなしまき
ぞしのも
ぞ帯のも
ぞんしのも
ぞろも



一 大結口付申武弓の結為人を七人半寸ニ付見ハ
文五波あり鶴又ハ金剛の時より
一 四人四寸大結ハ生ニ付ふ時用ニ吾他小鶴の大結三人四寸絵ニ古寄
絵を付和ニ成にすつてと
一 文五波の時大鶴の筆の長二人五寸申武
一 野清いぎゆり丸の筆長ニ八寸小鶴筆二人半寸申筆大結口付ニ
條
大鶴八人半開口付總二寸口付見鶴ハ六人四寸絵寸八分口 鶴四人
八寸絵寸六分見鶴三人四寸 雀鶴八三人四寸絵一寸見鶴も同

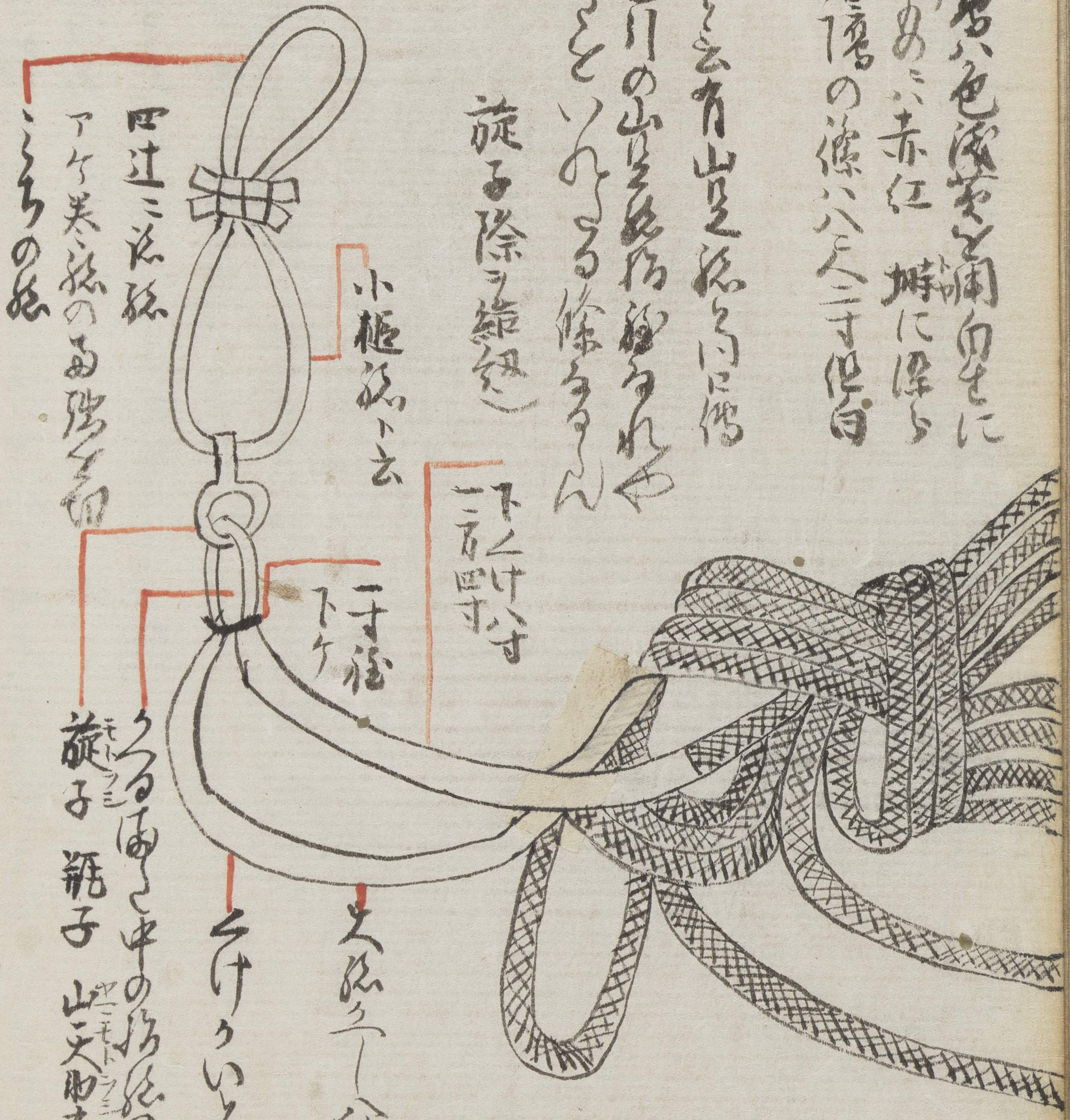


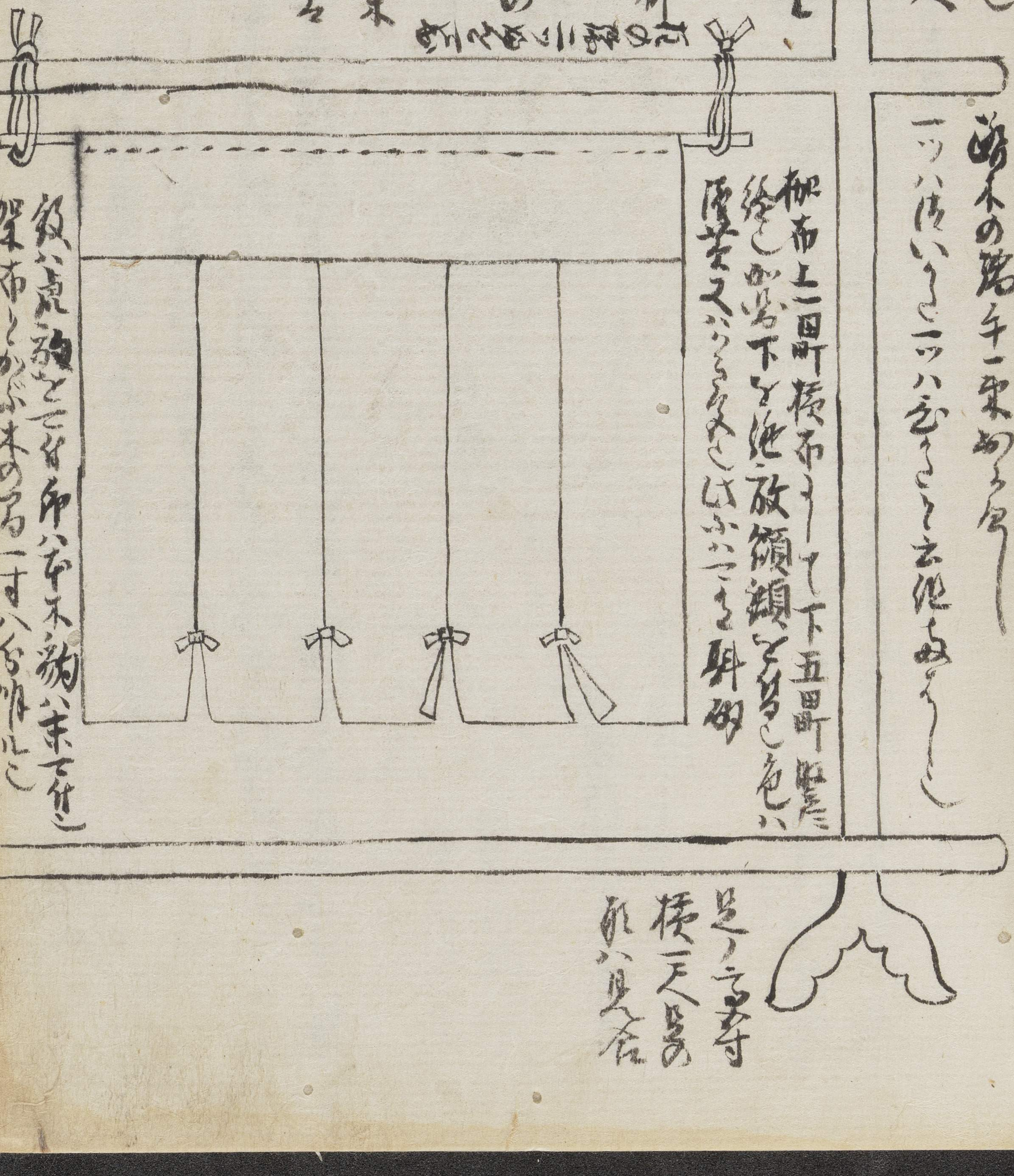
ヒサユ
瓶花寸
イ云ニ云ヘ花

一 黄色八色浅黄を開白さに
はふ(イロリ)の如ニハ赤紅　塀(トヤ)に深ら
古塀世隔の條ハ八尺二寸但白
絵也

一 尖條と云有山足絵ハ同口偽
足川の山足絵ハ極ゆれ
とゆるゆる條なるゆん

旋子除ヲ結紐



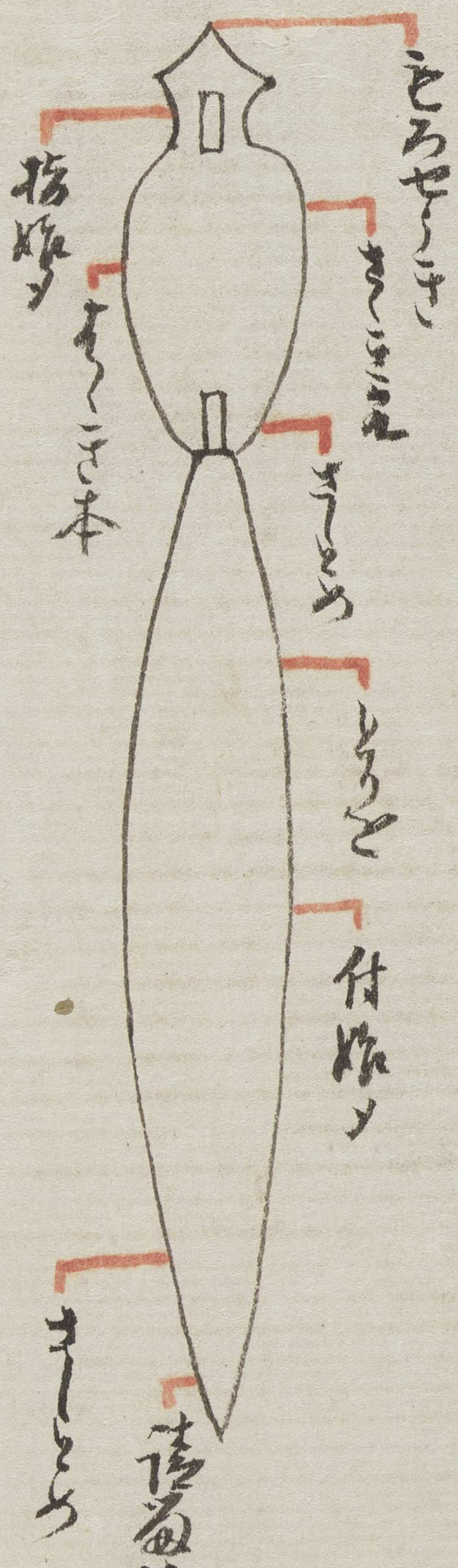


一

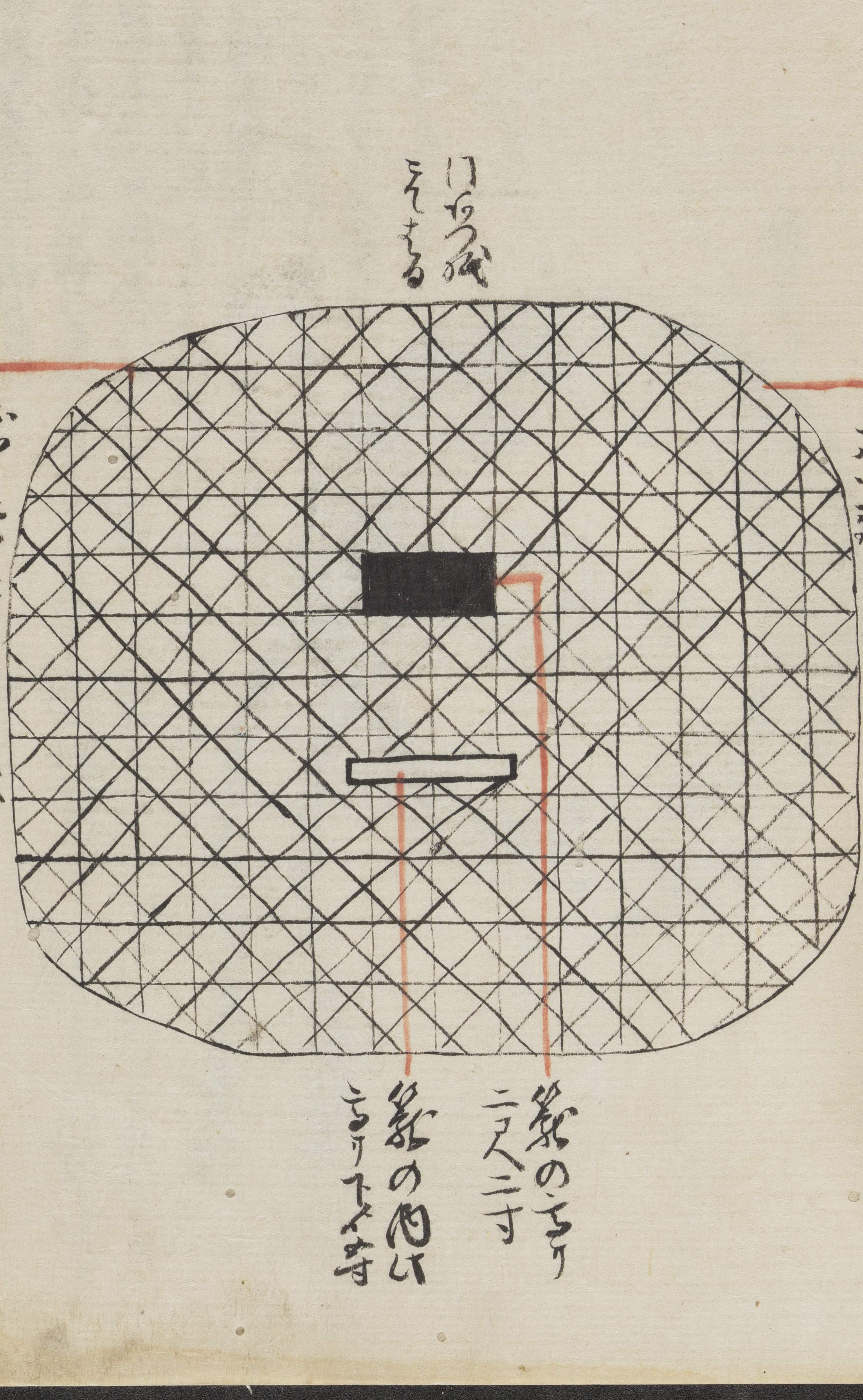
結架ハ定ル法無之取ニより折ニ一ツ程之二鳥直ハ指架ハ寸法をかゝれし
かゝ木ハ根ハ寸法上ニ根の距ニ一ツ程目ハ表ニ結之縄を角遠ニ二ツ程
て下結之



一

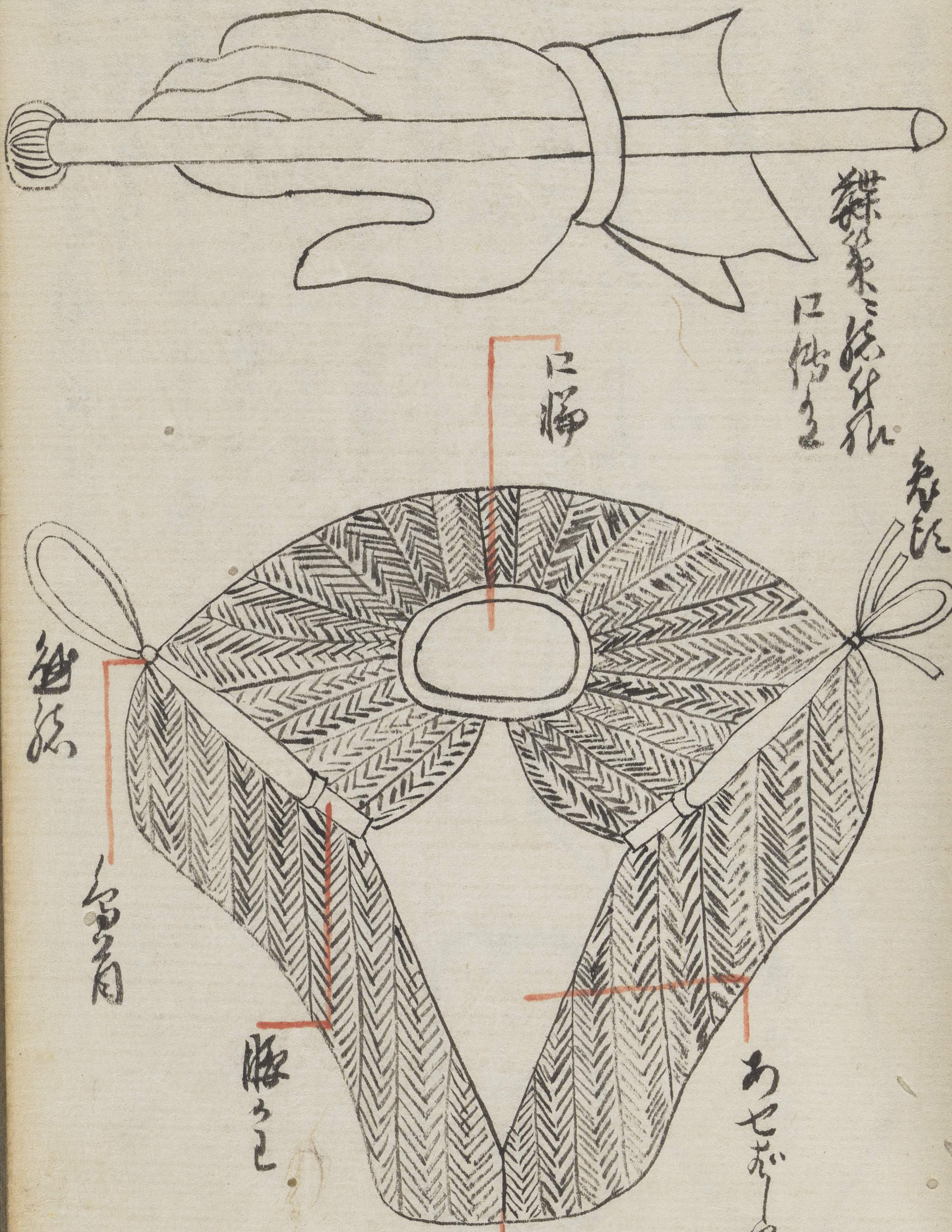


大鳥の足華八寸口偏是小形ニ成ル九寸又分ニ成ル廣サ五寸八分見鳥
の足華八寸五分ニ成ル廣サ八分小鳥の足華七寸ニ成ル廣サ
四分小形ニハ小寸ニ成ル鳥ニ於ケル是を用ル

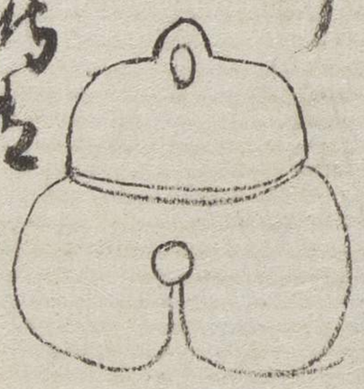


一　[illegible]

一　[illegible]に渡ることを
[illegible]文箱二番ニ各口三番ニ[illegible]
渡[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



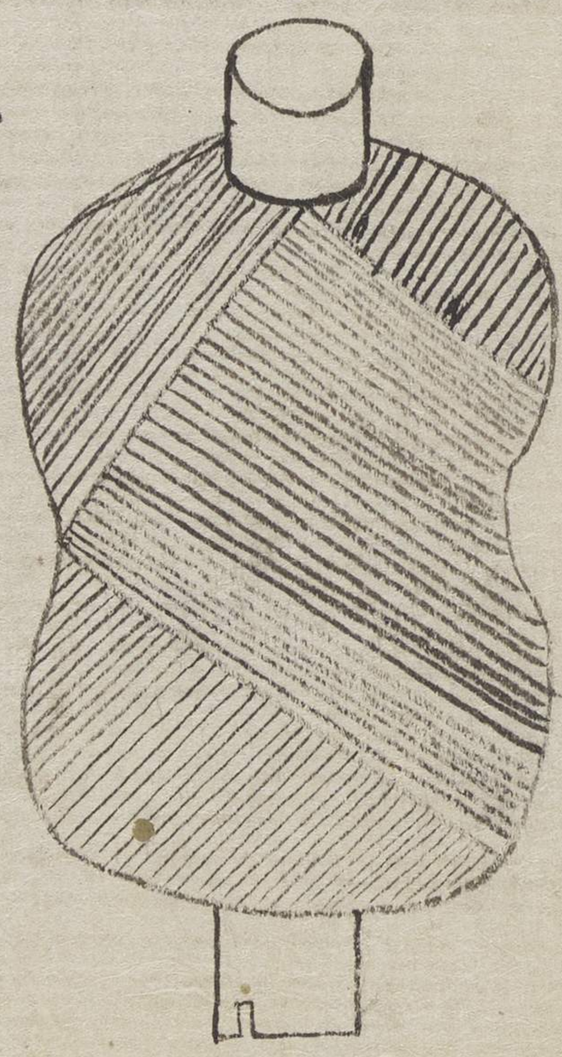
一 鱗筒弐寸五分鱗の長サ廿五尋度そハ尾縄と云
或ハ経尾共本し
一 與縄筒七ツ五寸三十弱鱗と口抱なれ
小鳥に経尾と云大鳥に呼ホ原と云
一 半鍍十五弱 一 中鍍七弱
いつくにか身を主縄のよるへなくおてハうる山陰のいは
一 大鳥の所板七ツ一寸八分廣ツ八分
一 只鳥の所板七ツ一寸六分廣ツ六分
一 鶴の所板一寸横ハ分
一 洽横張鍍を角面と云黒張
鍍を角面と云ホ今ノ洽
黄(コカ)今ノ洽今ノ洽ハ浪なり
洽を鳥に付時ハ拐(イニメ)板と云ニ洽納
とて事ニ帯にふ云口鳥洽楊(アヤ)鳥の事口鳥を
其の事とはひくしてなる鳥の洽をさめまる度も其ハ



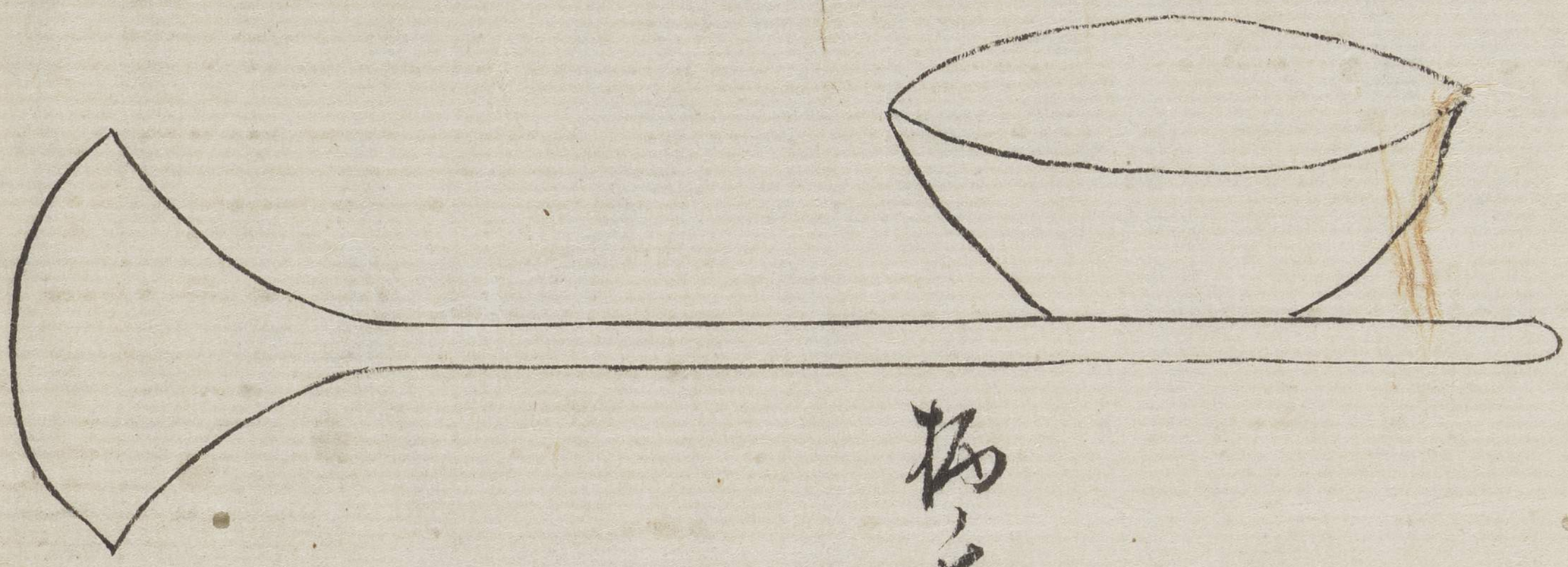




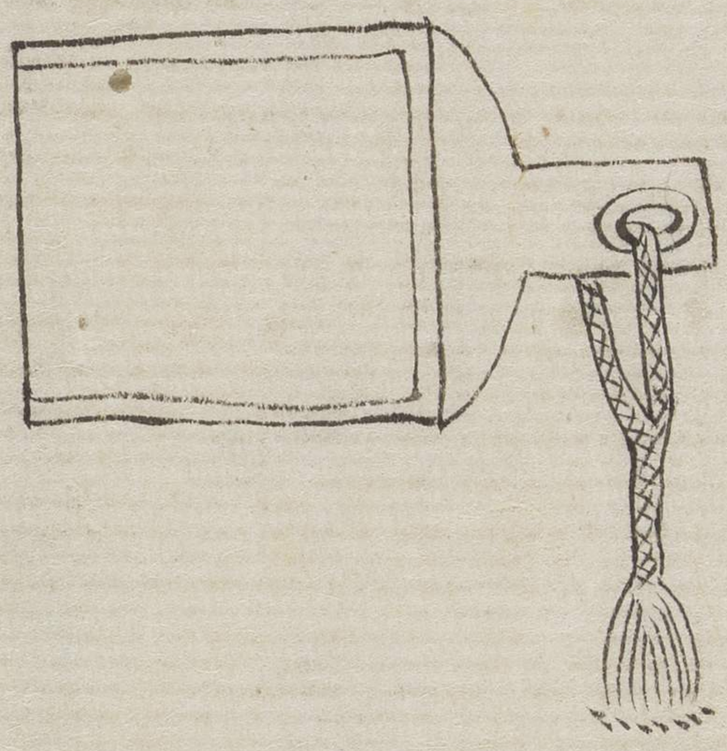




小槍程にする



柄ノ毛八寸



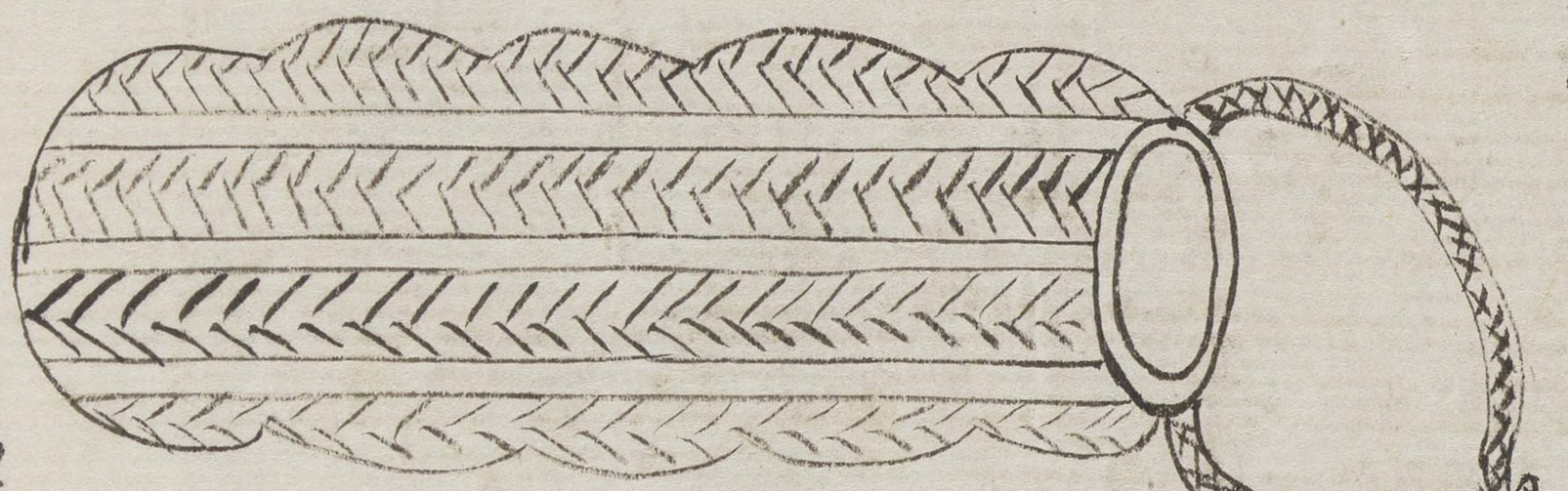


鉾合子ニテ一寸二分長サ二寸六分横二寸
五分ニシテ奴ニ作ル

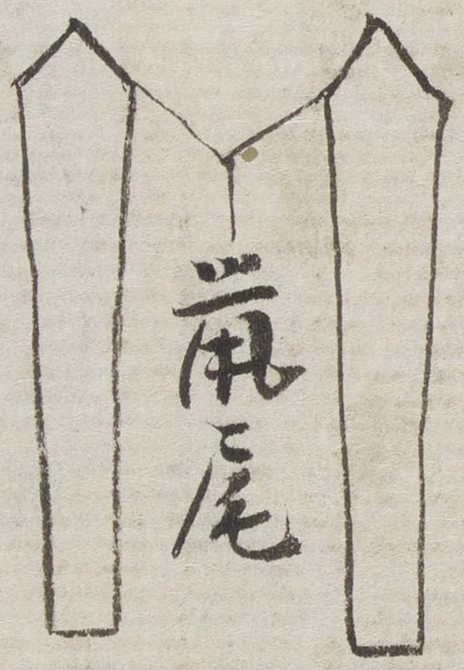
一

鉾ノ毛ニ云物有間ニ
の如く柄ニ立ル竹木ニ
調ル時ハ先の尖ニ立ル組
ニ調ル芸鶴にハ八寸
或ハ六寸鉾ニ立ル六寸梨
又ハ梅ニ立ル調ル

指鉾合子ニテ長サ三寸六分和柄ニ
用柄ノ幅五寸二分縁ノ高サ五寸五分







前後長サ六寸五分横一寸

柄ハ木地ノ上ニ漆塗或ハ蒔絵等ノ物好アリ

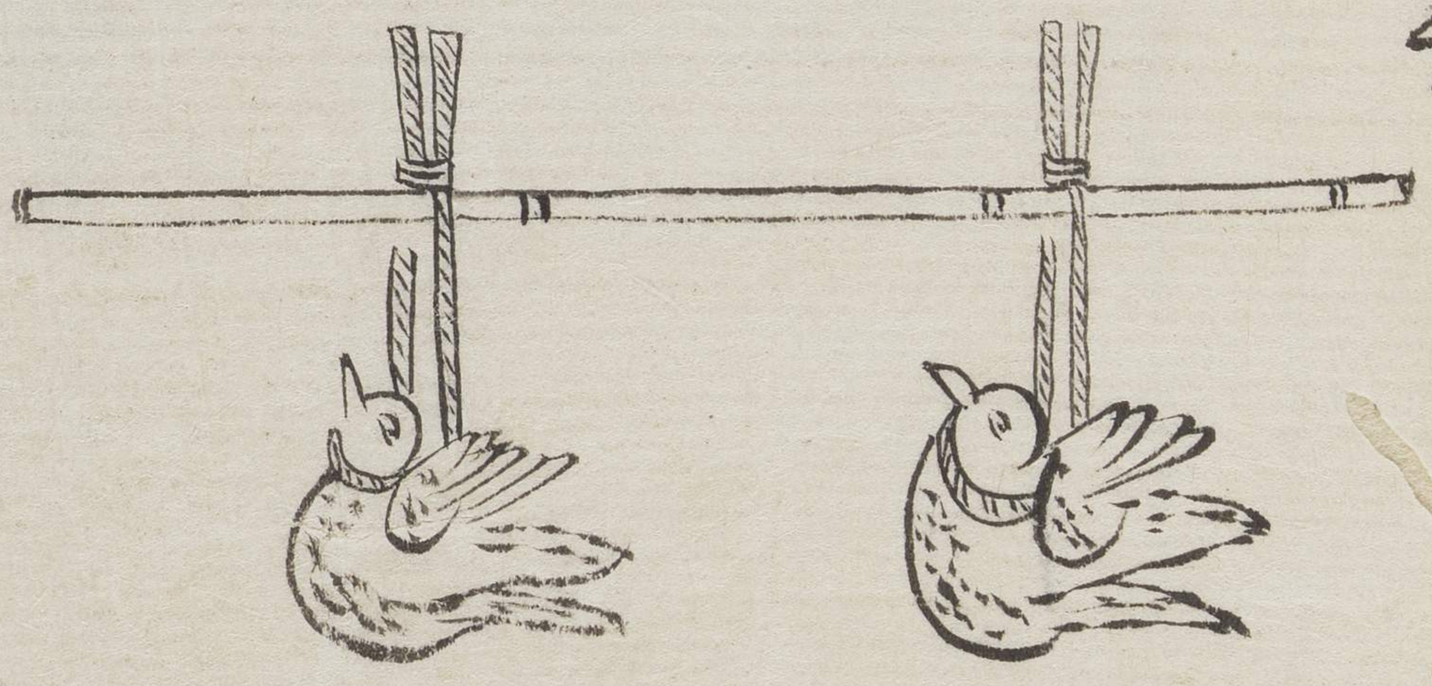


竹ノ長サ壹丈八寸又壹丈二寸無此附此無此事
鷹ナ壹鷹白鳥無此無此事然此鷹鳥ハ
無此ニ相似ニ鳥有古ハ金鳥張鳥の分ケ有
交ニ同しの時ハ鷹ナ壹鷹なるにハ是ニ横ニ落
を入レ事ハそこと事しかしそこと委細積
りこに志事しあらしなり

絡目事



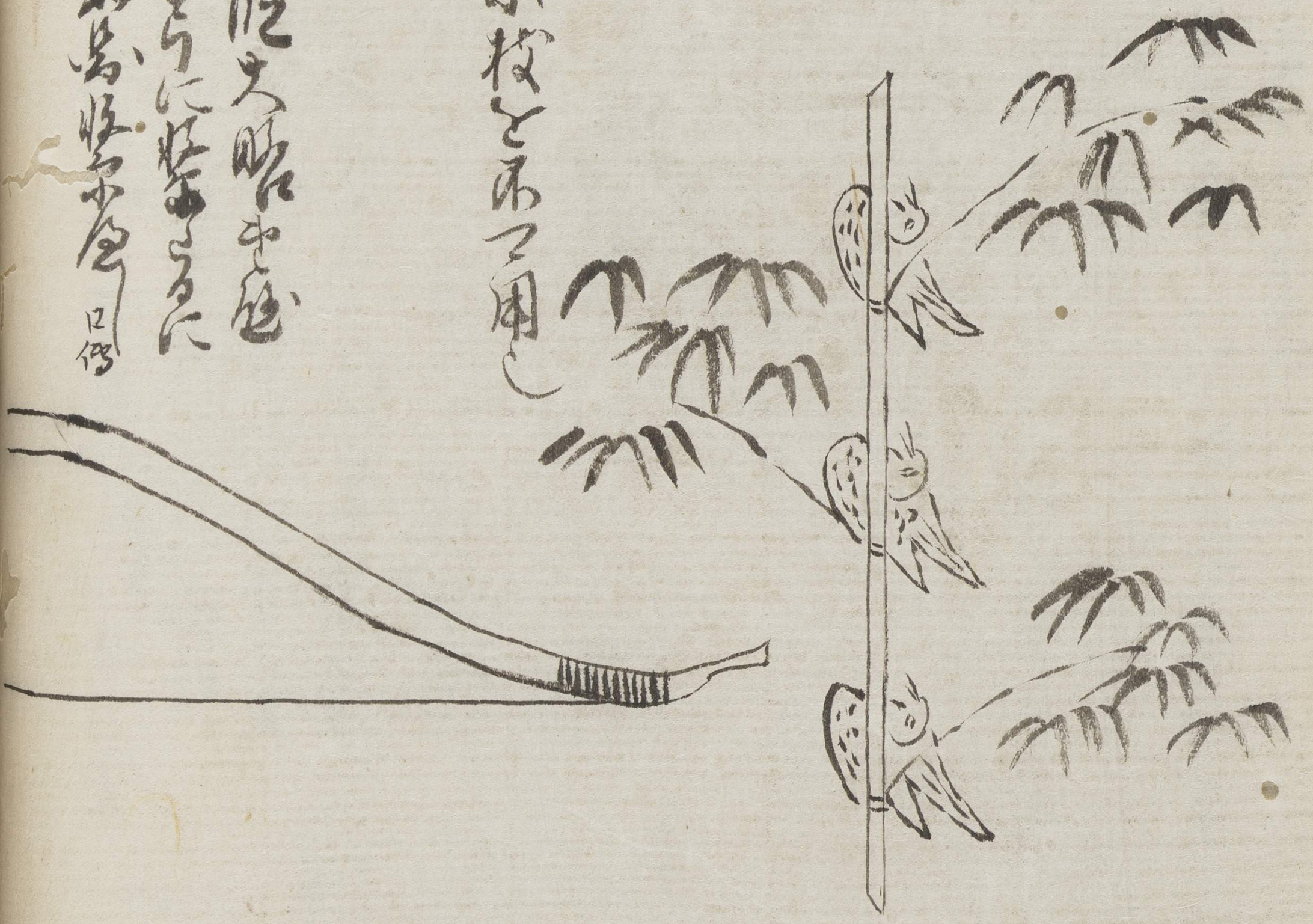
鷹蒼黄(ヒハリ)竹に捽む時ハそこと絶て捽し三五七数ハまとまむなり式
まるも時ハ上下に雄を捽なり竹の先をそこと切六寸書をふる
なりは六寸前と鷹色なりしに若干有ハて制当前をとし
時ハ竹のこゝろ丈口不てをなり

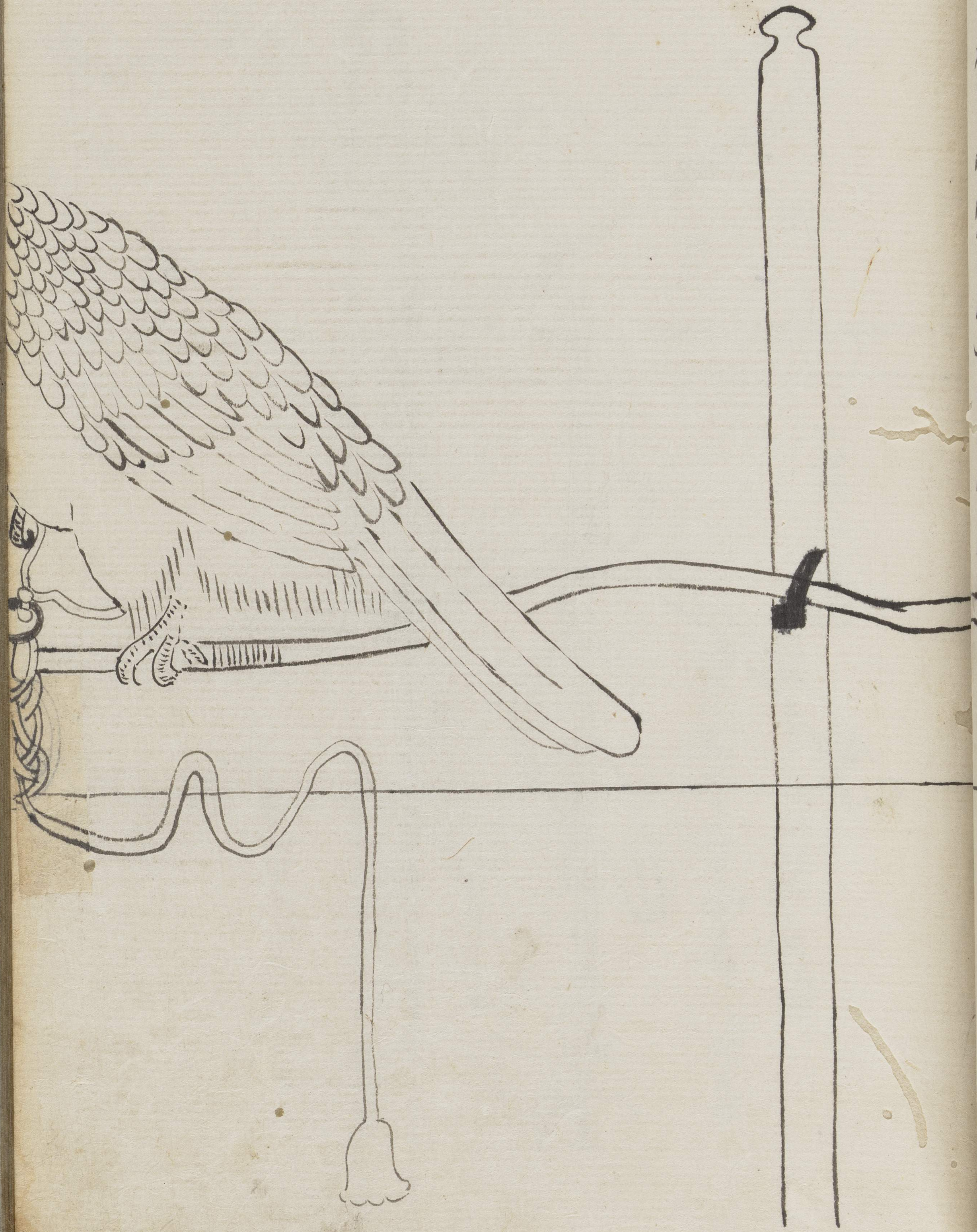


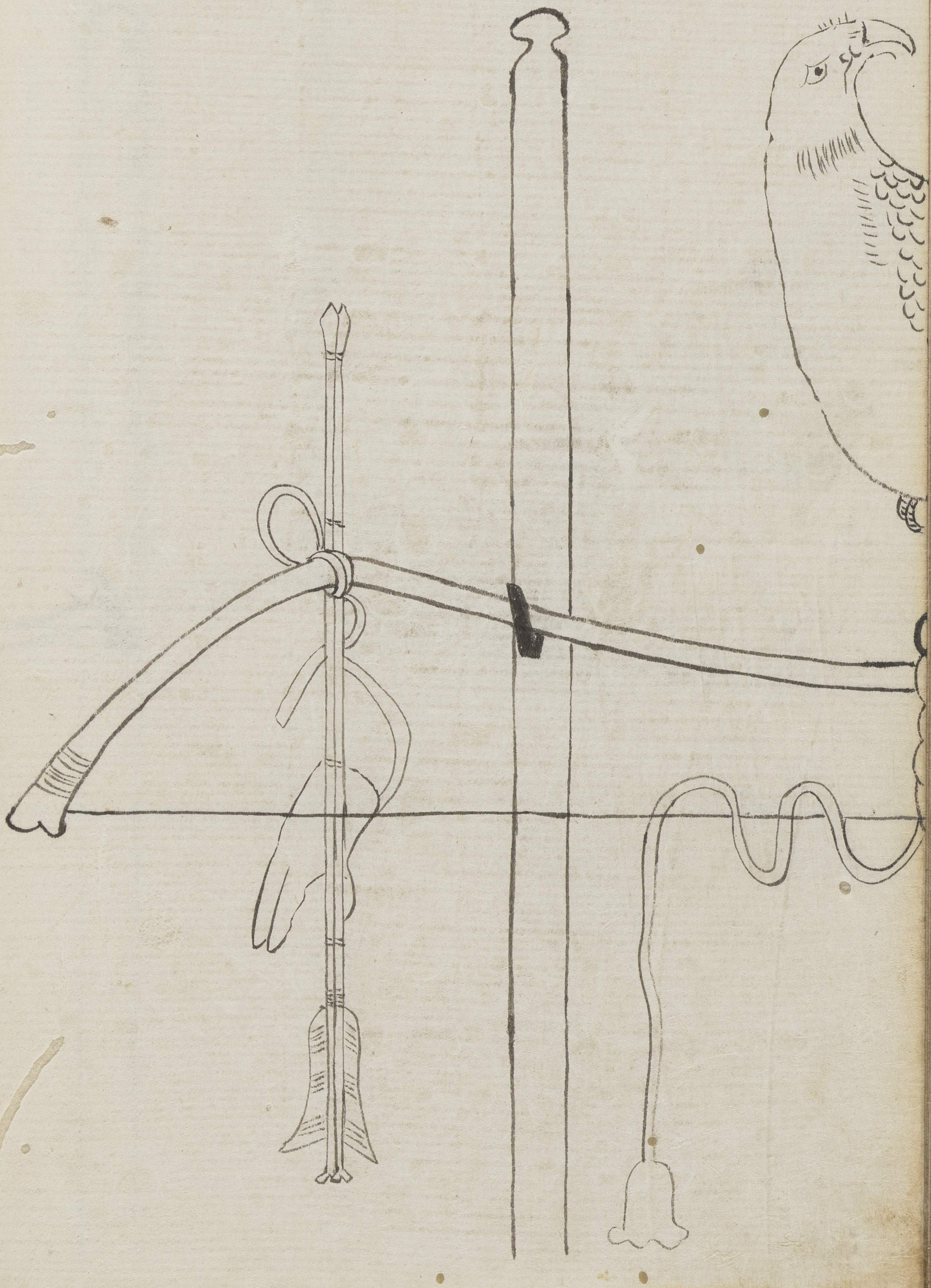
右揮狂口傳有強小枝を取て用ひ

拾二架の印し此印大略也
この架と同架ハ指下ニ紫ニ
よりて架と為名付也如高紫小色

口傳









第一番

小くまり三ツ栄唐用

比緊七くさゝと如昌口傳之



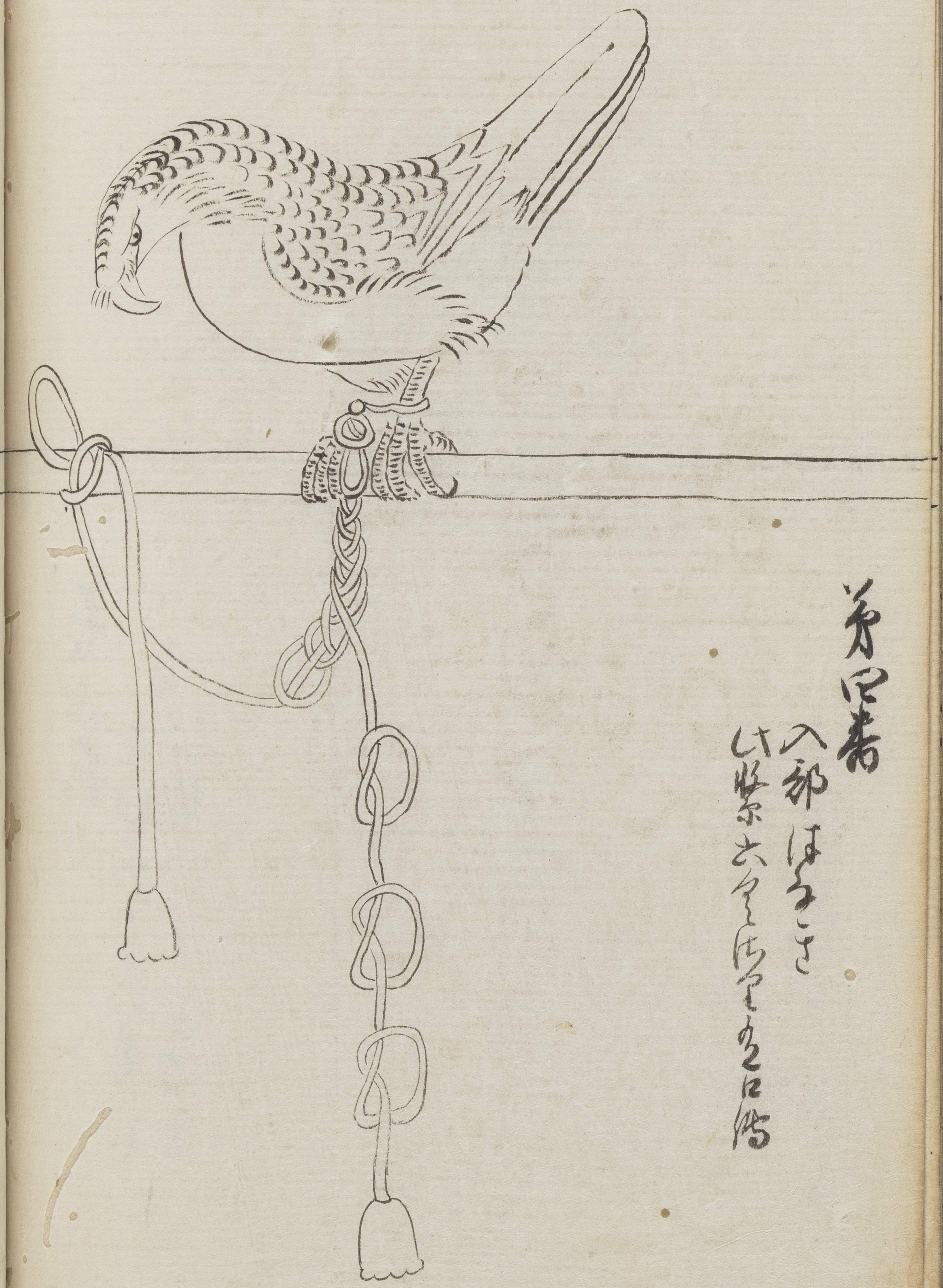
芥二番

意の前何時とも人前を用
付紫にこまりに偽



第三番

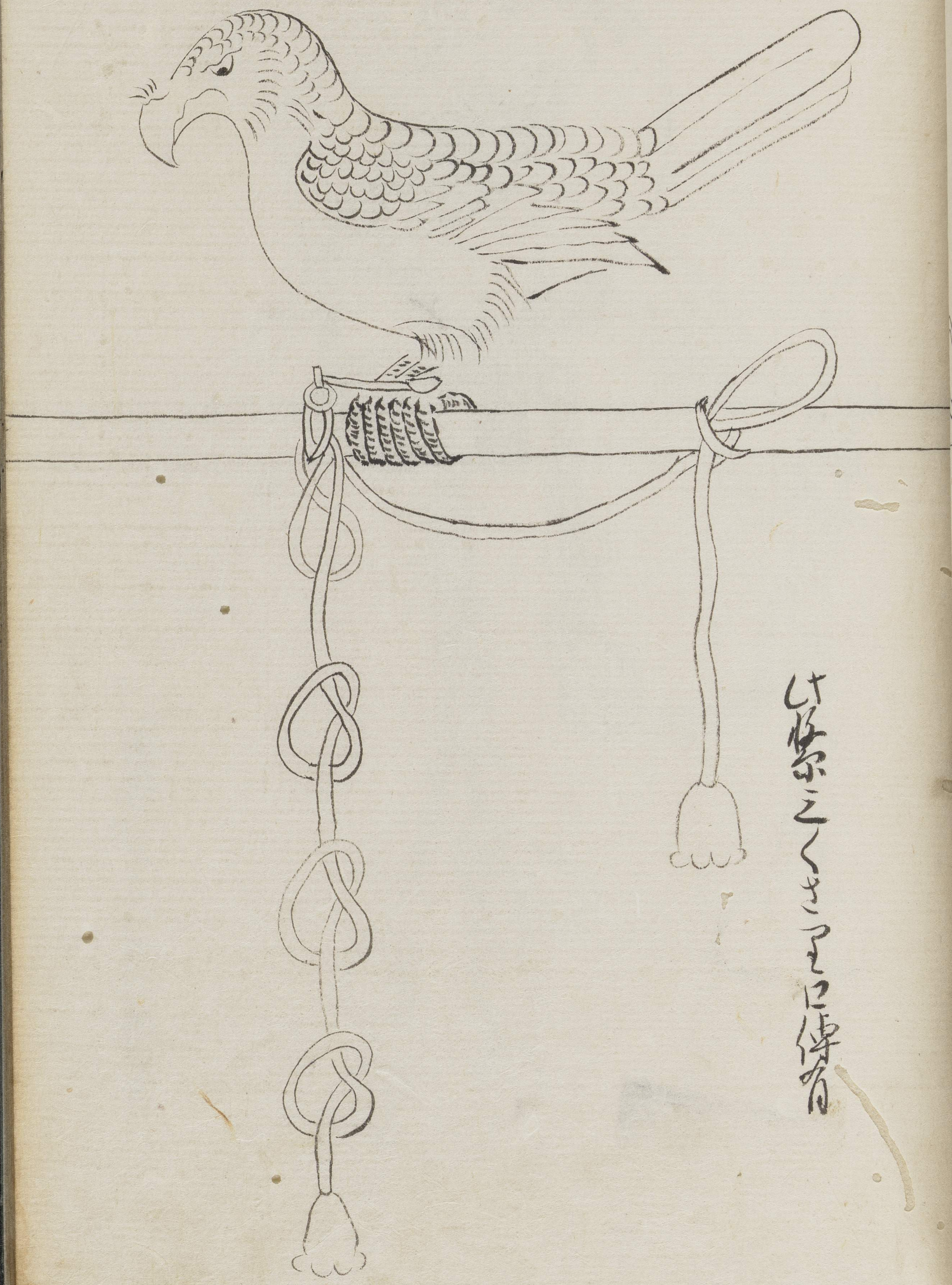
志目家なるを用ひ
け紫八ヒすり口作之



第四番

入部はなさ

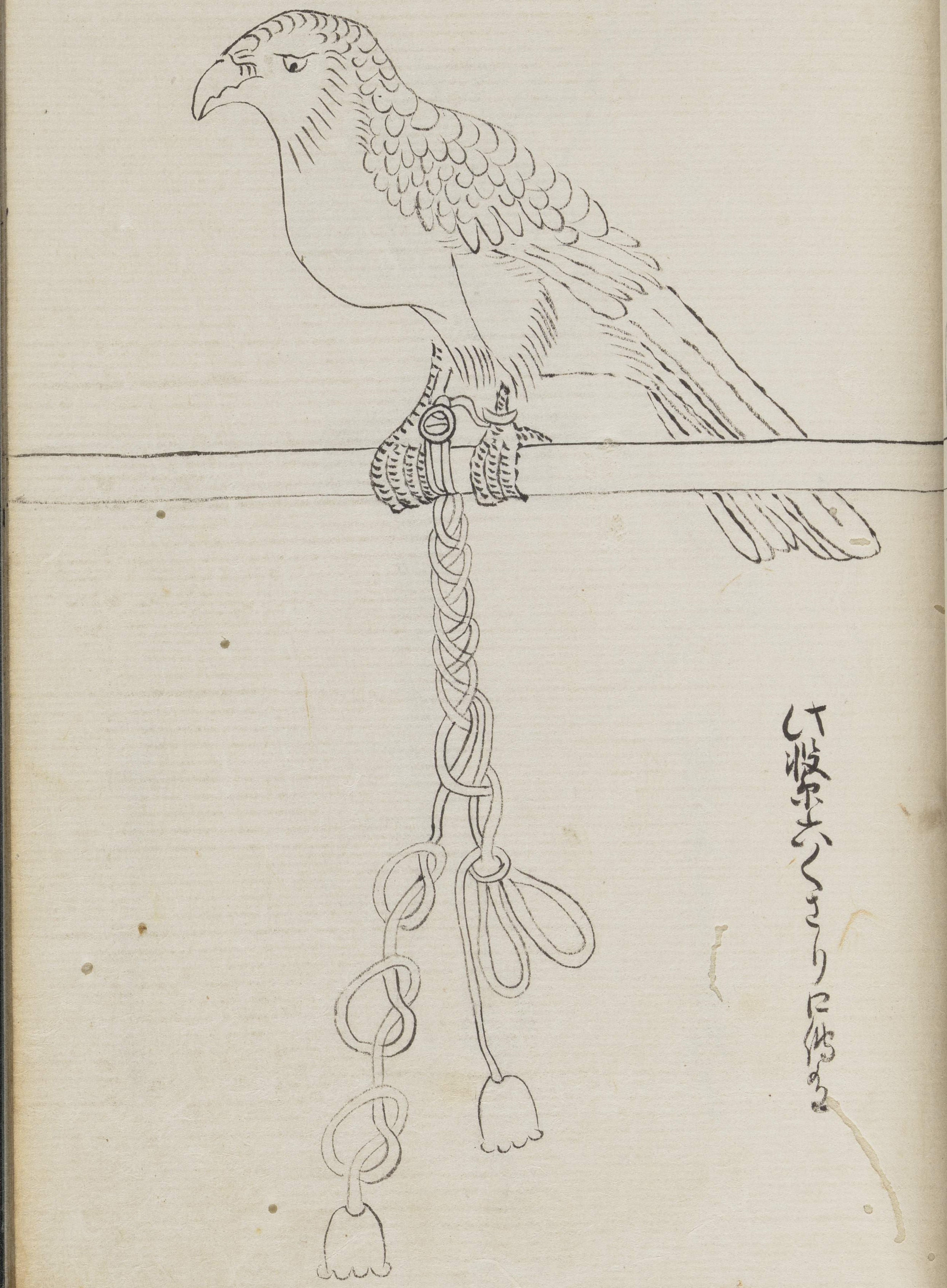
け紫六々ほ[illegible]



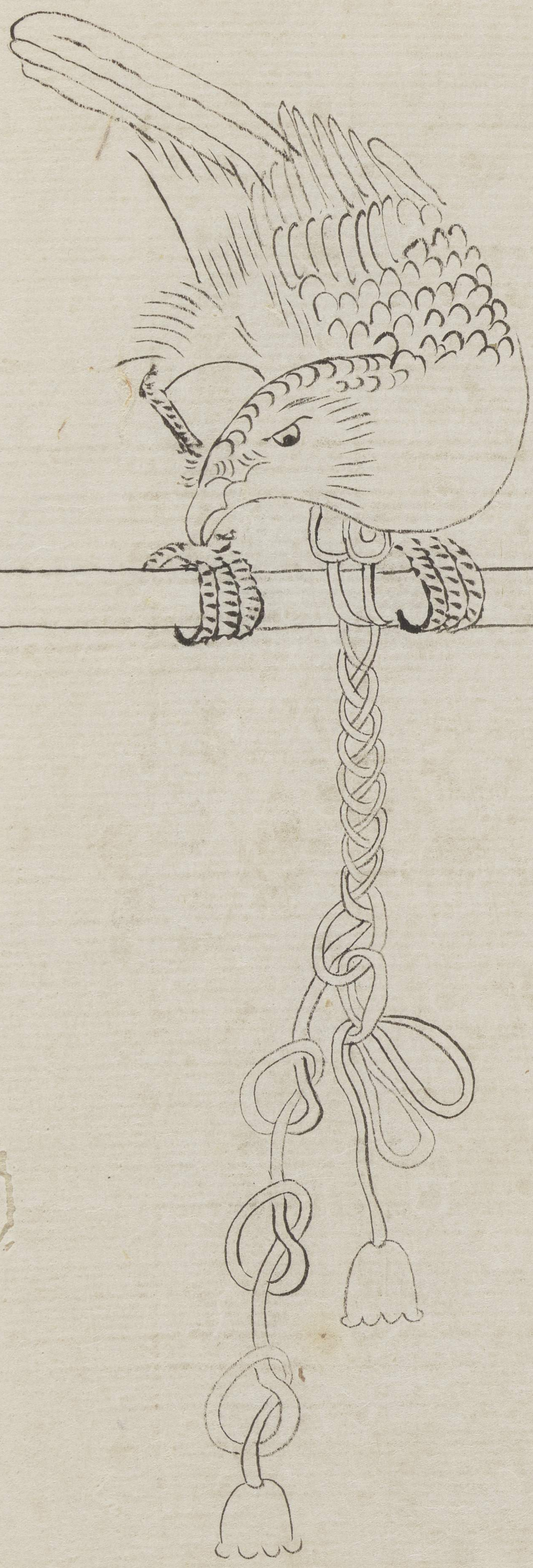
けぶ紫之くさ口傳有



は紫八重けり口絵有



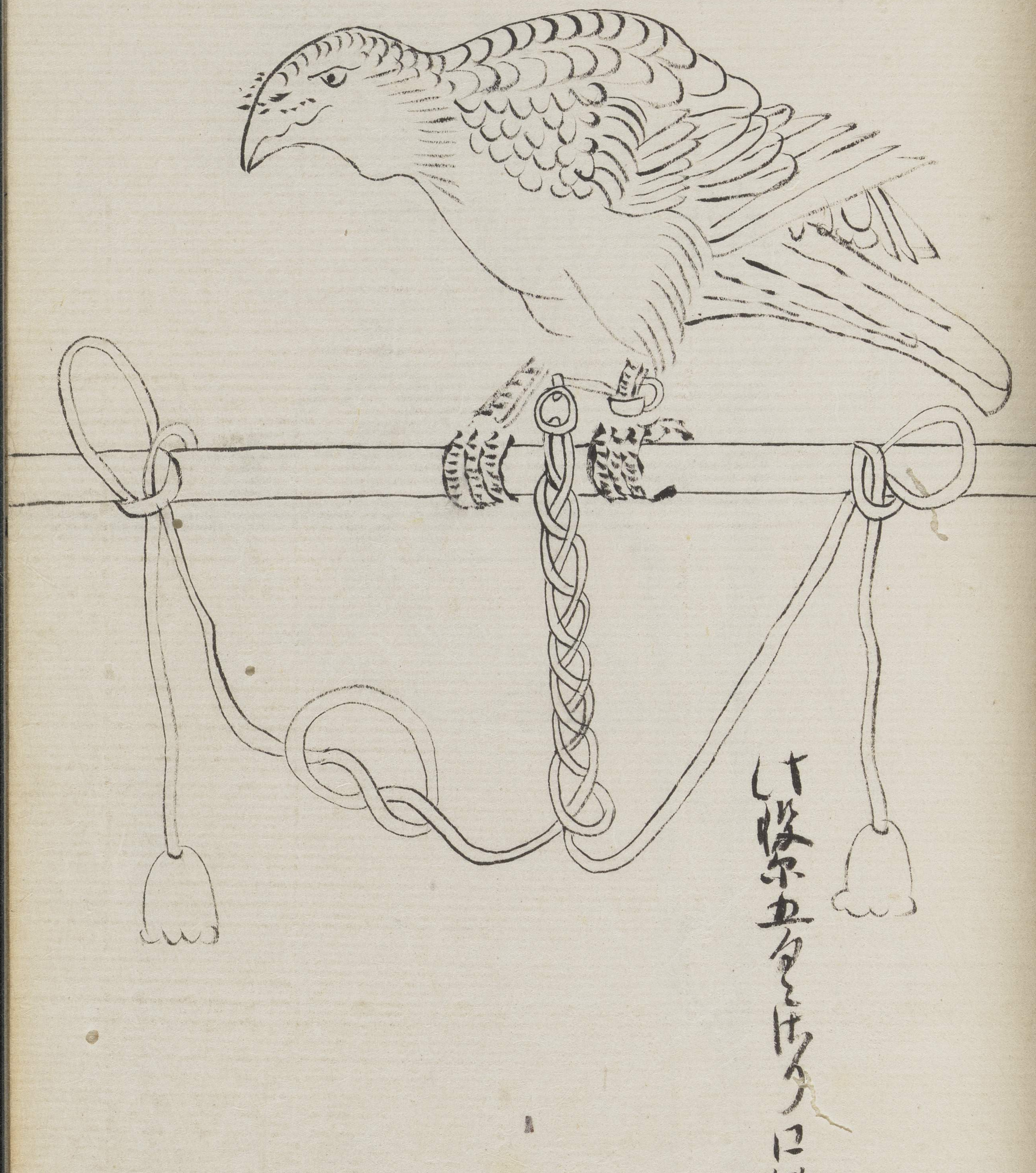
は紫六くさりに作る







比後宗三くまり



十六夜柴垣



レナ緊こくさり口絡を

